

## 日本ウマ科学会 2024 年度 第 2 回常任理事会議事録

日 時：2024 年 3 月 4 日（月）13：30～15：30

場 所：日本装削蹄協会（JRA 新橋分館 5 階第 1 会議室）

出席者：青木 修 会長  
田谷 一善 副会長  
笠嶋 快周 副会長  
山中 隆史 庶務担当常任理事  
半澤 恵 会計担当常任理事  
楠瀬 良 編集担当常任理事  
近藤 高志 学術担当常任理事  
桑原 正貴 国際担当常任理事  
平賀 敦 広報担当常任理事  
佐々木 直樹 臨床担当常任理事（オンライン出席）

福田 健太郎 事務局長

高橋 敏之 JRA 競走馬総合研究所 所長 ICEEP 国際委員  
加藤 智弘 " 企画調整室 室長

議題：

はじめに 青木 会長 挨拶

1. 役員の変更について . . . . . (山中・事務局)
2. 第 36 回学術集会開催報告 . . . . . (近藤・事務局)
3. 2024 年活動計画について . . . . . (事務局)
4. 第 37 回学術集会予定 . . . . . (事務局)
5. その他
  - 1) 臨床委員会企画の準備状況 . . . . . (佐々木・事務局)
  - 2) 第 4 回認定馬臨床獣医師認定試験について . . . . . (佐々木)
  - 3) 認定馬臨床獣医師の更新状況について . . . . . (佐々木)
  - 4) 新ウマ用語集 2023 の発刊について . . . . . (楠瀬)
  - 5) ICEEP12 の開催準備状況について . . . . . (高橋)
  - 6) 学会賞・奨励賞・功労賞の選考について . . . . . (近藤)
  - 7) BEVA Affiliate Membership について . . . . . (事務局)

## 議事概要：

### 議題 1. 役員の変更について

- 青木会長のあいさつに続き、山中庶務担当常任理事から、JRAにおける定期人事異動に伴い自身および笠嶋副会長の退任と、それに伴う高橋敏之 JRA競走馬総合研究所 所長の新副会長就任、および加藤智之 同企画調整室室長の新庶務担当常任理事への就任の提案があり一同承認。その他、同様の理由で評議員 3 名、および臨床委員 2 名の交代の提案があり、一同承認。

### 議題 2. 第 36 回学術集会開催報告

- 近藤学術担当常任理事から 11 月 27 日(月)～11 月 28 日(火)に行われた学術集会に関する詳細を報告。
- 参加者数はほぼコロナ前の水準に回復し、参加者収入は前年比 111%となった。
- 今大会は一般非会員の参加者に入会登録を認めたが、85 人中 41 人が会員登録を済ませた。
- 奨励賞は帝京科学大学のリングホーファー萌奈美会員が受賞した。
- 過去最高の 23 社による企業展示が行われたほか、伯楽会による絵画展示が企業展示会場で行われた。
- 学術集会に関わる予算執行は想定通りとなった。臨床委員会事業費支出における講師交通費は、本年に行われる招聘企画に係る経費を残している。
- 参加費収入も増加したが、会場使用料の値上がりもあり支出も増加した。
- 企業展示における協賛金が 700 万円を超えており、例年通りの経費であれば企業展示収入は 400 万円を超える目算である。

### 議題 3. 2024 年活動計画について

- 2024 年の活動計画について事務局が説明した。臨床委員会主催の招聘講師による実習を学術集会翌日の美浦トレーニング・センターで開催する予定である。

### 議題 4. 第 37 回学術集会予定

- 事務局から第 37 回学術集会の開催方法とその検討項目を説明。
- 前回は研究発表会会場に入りきらない参加者の受け皿としてパブリックビューイング (PV) を行ったが、開場から PV 会場にも人が詰めかけていた。午後になって学術集会の開催が始まって、聴講目的ではなさそうな参加者の着席が目立ち、席が不足するという事態になった。このため、今回はさらに会場を拡張し、2 階の Hall 2nd を使用して午後も PV を開催することとし

たい。

- 企業展示の増加や伯楽会の展示場所の拡大ニーズに対応するため、このHall 2ndにて絵画展示を開催することも検討中。
- 臨床委員会企画はDr. Elizabethによる講演を2時間＋症例検討会2時間を要望されている。
- 人文系特別座談会として、昨年英国王室騎兵連隊に作品を寄贈された油彩画家の長瀬智之氏を中心とした企画を検討中。本人からは快諾を受けている。
- 本年はアンケートでも求められている合同懇親会を復活させる予定。
- 前回の学術集会では事前参加登録業務から当日の出欠確認まですべて事務局が手作業で行っており、非常に非効率であった。このため学会当日は受付で長蛇の列ができてしまった。本年はこれらの作業の自動化を行い、さらに同時に、事前登録のキャンセル返金が可能となるようにクレジット決済を導入するべく、多くの学会で採用実績があるConfitシステムを導入して参加登録システムを外注することを検討している。

## 議題5 その他

### 1) 臨床委員会企画の準備状況について

- 本年招聘予定のDr. Elizabeth (Newmarket Equine Hospital) からアテンドの北海道NOSAI 宮越先生を通じて伝えられたスケジュール案を提示。東京競馬場でのジャパンカップ観戦、学会翌日の美浦トレセンでの講演および実習、さらにJBBA主催の北海道日高での講演実習が盛り込まれている。
- アメリカと日本の往復便と北海道に発つまでの旅費はウマ科学会で支給。残りはJBBA。
- なお、第38回学術集会の講師招聘はJRAアテンドで調整中。

### 2) 第4回認定馬臨床獣医師認定試験について

- 佐々木臨床担当常任理事より、2023年11月28日(火)にKFC Hall & Roomsにて2名が受験し共に合格。試験の合格者には認定証を郵送したと報告。
- 規程に定められている様式について、メールアドレスの記入欄を追加。

### 3) 認定馬臨床獣医師の更新状況について

- 2023年中に資格有効期限を迎える103名を対象に更新手続きを受け付けたところ、58名の申請を受け付け、更新を行った。本年末には17名が有効期限を迎えるため、前年度同様の更新作業を行う予定。
- 学会期間中に本年も専門医制度について検討するタスクフォースを開催する予定。専門医制度については今後導入ニーズを踏まえたうえで具体的な実行計画案を策定し、次回の常任理事会で諮る予定。
- 専門医制度については臨床委員会が率先して進めている制度であるため、日

本獣医師会が考える認定医制度の在り方についても意見をうかがいながら進めていくよう、意見が出された。

- 認定馬臨床獣医師自体が専門医であり、ここから細分化させるのは本当のニーズといえるのか。現在の認定医の人数を増やして裾野を広げることの方が重要ではないかという意見が出された。

4) 新ウマ用語集 2023 の発刊について

- 3月中旬に発刊するべく製本作業中。

5) ICEEP12 の開催準備状況について

- 開催会場（都市センターホテル）の正式予約を昨年12月に完了。
- 開催経費について再見積もりを行い、JRAからの助成認可を目指す。
- 助成金とスポンサーおよび参加費収入の合計が支出を上回った分は、ICEEP本体ではなくJRAへ返還する予定。この場合、ICEEP国際委員より、スポンサー募集は日本の開催組織委員会で行うべきとの意見がある。
- 要旨等の締め切り期日の仮案を決定。
- デザイン作成会社より大会ロゴ案3種類の提出があり、今後国際委員に諮る予定。
- ICEEP国際委員3名が10月25、26日に来日予定。国際旅費と宿泊費はICEEP国際委員会で負担。

6) 学会賞・奨励賞・功労賞の選考について

- 褒章選考対象となるような実績がある方の推薦をぜひお願いしたい。

7) BEVA Affiliate Membershipについて

- BEVAよりアフィリエイト会員の案内があり、本学会としてありがたく受諾した。JSES会員の登録で従来よりも低価格でBEVA本会員と同じ特典が受けられるというもの。新しいJSES会員特典として詳細をホームページに掲載予定。

(15:30 終了)